

# 道写協

## 北海道写真協会

事務局 ■札幌市中央区大通西3丁目6道新文化事業社内  
011-210-5735(直通) 011-207-3939(FAX)  
<http://www.doshakyo.org/>

第150号

# 第70回記念写真道展に向けて

### 審査委員長は写真家清水哲朗氏に決定 講演会は「モンゴル取材25年の軌跡」



清水哲朗氏は1年うち三分の一という間をモンゴルで過ごしています。モンゴル

ルという国に憧れたかきつかけは日本の動物園で「ユキヒヨウ」に一目惚れしたことだそうです。

いつか野生のユキヒヨウを撮影したいと思っていたところへ、師匠の竹内敏信氏がモンゴルで写真展を開く機会があつて、同行。モンゴルではそれ以外にも魅了されるものがたくさんありました。例えば大自然の半端じゃないスケールの大きさ、人の文化は興味深く、何度撮影に行つても一度も飽きたことがないそうです。モンゴルという辺境な土地を撮り続ける清水哲朗氏。日

本では想像できない、非日常な自然環境に臆するどころかそれを楽しみ、進んで撮影しているお話を聞けると思います。

### 清水哲朗氏のプロフィール

1975年横浜生まれ

1985年日本写真芸術専門学校卒業後

写真家・竹内敏信氏のアシスタントを経て独立。モンゴルの大自然に魅了され、年数回は現地に滞在しながら撮影、また都市部に住む低所得者・貧困層の生活も精力的に取材し、2005年「路上少年」で第1回名取洋之助写真賞受賞。

国内では「都会に暮らす動物の生命力」をテーマに東京のガラスやネズミを追う。2016年さがみはら写真新人奨励賞を受賞

写真展、写真教室講師、雑誌随筆多数

# 発想の転換を



この度、第70回記念写真道展を開催できることを大変嬉しく思います。

近年、新型コロナウイルスの感染拡大により写真環境が厳しくなっているという声も少なくありません。確かに、遠くへ出かけることや、祭りやイベント等の人の集まる所に行くことは「避けるべき」という暗黙の了解があるようにも感じます。

しかし、冷静に周りを見渡してみると被写体は無限にあるものです。逆に、制約がある中で活動していくことは、今までは違う視点で物事を見るきっかけとなり、新しい作品が生まれることに繋がっていくと感じています。特に、第1部、第2部はこれに当てはまります。ただ、そうは言っても、どうすれば視点を変えられることができるのかと頭を悩ませるかもしれません。例えば、立ち位置を数十年後の未来に置き換えてみるのはいかがでしょうか。写真は数十年先までも残るものです。昭和が「レトロ」と称されるように、この令和の日常風景も数十年後には「レトロ」と呼ばれるこ

とになるのです。そう考えると、日常の1コマ1コマが貴重なシャッターチャンスと思えてくるのではないのでしょうか。

第3部のネイチャー写真に関しては、先述の影響はほとんどありませんが、作品のマンネリ化から脱するために、自ら制約を課すのも一つの策であると考えます。自由であることは無限の選択肢が目の前に広がっている状態です。これほど難しい課題は他にはないでしょう。そこで、自らテーマを定めたり、場所を限定することにより、より深くそのテーマや場所と向き合うことができ、良い作品を生み出すことができるのではないのでしょうか。

第4部については、学生らしい新鮮な視点の作品が集まり、我々にとつても非常に勉強になる部門です。「写真はこうあるべき」と決めつけることなく、素直な気持ちで新しい視点を受け入れていきたいものです。

道展では、規定を順守することはもちろん重要ですが、逆に言えば、それ以外は何々の自由なのです。その自由の中で自身に合ったテーマを見出し、個性あふれる作品が集まることを心より期待したいと思います。

実行委員長 西澤 實

# 審査会員が期待する写真

## 第1部

山下 智

私は写真を始めてこれまでスナップ中心の写真撮って来ました。いつも「歩くが勝ち」の精神で、コンテストを念頭に絵になるような場所や瞬間を求め、探し歩いてきました。成果があつて、思い描いたシーンを捉えられたときの一枚には喜びも格別です。しかし、あとからそれを見返すと邪念を感じたりするようになって、いつごろからかなんとなく肩の力が抜け自分でも作風の変化を感じるようになりました。

写真道展の審査には長く携わっています。応募作品を見てコンテスト狙いの作風の作品には、時に若干の拒否感すら覚えたりします。他の審査員も少なからず感じていることではないでしょうか。

自分の心そのまま素直に写した写真は「想い」が見る者に気持ちよく伝わってくるものです。第1部(自由)は思いのまま感情移入した作品を応募しやすい部門かと思えます。第70回を記念する今回、新しい素材に目を向けた作品が多く見られることを期待しています。

## 第2部

田澤 康史

観光と産業は、北海道の魅力が多くあり題材の再発見に事欠かない事でしょう。

他の部門も同じ作品の作り方としては、自分の視点、表現を追求するために場所や時間帯を考え場合によっては納得がいくまで通う事で作品としての質が向上するものです。

常に頭の中に構想を描きアイデアを考え実現するために、周りにアンテナを張っておくと、とつきの時に対応できると思います。

観光・産業でも、人物が入ると個人情報絡みですが、一言の挨拶で解決するのはないかと思われまます。

地元の人たちには日常でも、私たちには新鮮な発見となるので、活き活きとした、生活の中で人物をワンポイントで配置する場合でも、最適な場所に配置して、力強い作品となる様にして仕上げてほしいです。

この部門は二次的画像の加工は、不可となつていきますので留意して下さい。

尚、撮影地の判別が出来ないなどの作品は第1部に応募の事。

## 第3部

西野 徳義

写真道展70年歴史の中で、ネーチャーフォトの部は第40回展(1993年)で第5部として新設されましたが、当時は作品の応募がどの程度見込めるか、役員さんたちは不安だったそうです。

しかし、その心配を他所に第1部に次いで617点の応募があつたと当時の会報が報じています。その時の1席は雪原に残る野生動物の足跡を映した作品でした。

それはさておき、北海道はネーチャーフォトの宝庫と言われるほど豊かな自然に恵まれており、そうした背景があつてか、毎回レベルの高い作品が多数応募されています。さて今回応募を検討されている皆さんは、自分の感性を大切にしつつ、写真を楽しむことも忘れずに作品の制作に励んでください。そして、皆さんの作品を拝見させていただいた時に「こんな写真撮ってみたい」、「こんなところに行ってみたい」、等々、そう感じさせてくれるような作品を期待しています。

応募規定を順守の上、入賞目指して頑張ってください。

## 第4部

阿部 悦子

写真道展の中でとても楽しみにしているのが第4部門(学生)です。

応募される写真は主に学園内や課外活動などの場所での若者らしい躍動的なもの。或いは発想の面白さ、大胆に切り取った構図の作画など創造性のある作品に出会えるからです。

題材はいろいろと多種多様でスナップが中心ですが、世相を反映したもの、より鋭い感性で表現したもの等です。

最近ではデジタルカメラ・スマホ等いつでも安易にシャッターを押し撮影できるので撮影意図がなかなかわからない作品が多いのも事実です。

目標を決めたらよく考えて何をどう撮り、どう表現するか、または青春時代の中でしか撮れない喜びや楽しさ、悲しみ、時には、怒り等をカメラを通して見つめる事で自分の人生をより豊かなものにしていきます。

ぜひ皆さんの撮った一枚の写真が第三者に感動を与えられるような作品を期待しております。

フォトエッセイ

出会いと笑顔の  
来る日を願って！

小樽支部 小泉和子さん

コロナ禍で暫くお会いしていません。Tさんからご主人訃報のお知らせで、お参りさせて頂きました。遺影の写真(2004年7月)を見てびっくり！大雪登山の折私が写した満面笑顔のご主人でした。

初夏、T夫妻に誘われ初めて登った大雪山赤岳は今が春、山道は可憐な花が咲き乱れ、買ったばかりのカメラ(コンパクト)でわくわくしながら撮りました。山頂は雪渓を被った大雪の山々が美しくまさに神々が遊ぶ庭！T夫妻を撮影、後日記念に差し上げたらずっと飾ってくれたそうです。この時の写真が遺影写真でした。

以来この感動から山に登って写真を撮りたい！現在も生きがいとなりました。

又T夫妻、山や写真の諸先輩に出会い導かれ楽しい時を過ごす事ができました。

今はコロナ禍で出会いも笑顔も消え残念です、楽しい出会いと笑顔の皆さんを写したいと心から願っています。

室蘭文化連盟奨励賞を受賞して

室蘭支部事務局長 鳥海政史



地域文化活動への写真貢献を評価され、このような賞を賜りました。仕事に関連して持ちました。

はじめた一眼ですが、その後写真の奥深さに触れる機会があり、道写協で学ぶことになりました。

最近では人のお世話をする立場も与えられ、作品創りとの二刀流に焦りを感じるこの頃ですが、今が踏ん張りどころと肝を据えました。

感謝と恩返しで、今後もやりがいのある人生になりそうです。ありがとうございます。

高橋和幸さん(釧路支部)

写真集を出版



今回も大雪山系のスケールの大きさと雄大さに更に四季折々に彩られる山並の美しさ、高山植物に彩られる群落、紅葉の景、雪水におおわれる厳しさの冬景色等を集大成として出版しました。

第70回記念道展事業

・審査委員長(招聘)

写真家 清水哲朗氏

・第70回写真道展記念誌の作成

寄稿文(道新文化事業社 社長 若林直樹)

道展10年間の軌跡

座談会(今後の道展の方向性)

・各種表彰(道新ホール)

公募展の表彰

道写協表彰(感謝状・功労賞・協会賞等)

・講演会(道新ホール)

写真家 清水哲朗氏

・演題 モンゴル取材25年の軌跡

・審査委員の出席

全紙または全倍

・パネル掲示(札幌ギャラリ)

過去10年間北海道新聞に掲載された写真道展記事のパネルで掲示

第70回記念写真道展日程

・記念写真道展作品募集要項(全国公募) 発送

2022年11月上旬

・記念道展の応募受付期間

2023年2月1日(水)～

2月10日(金)

・記念写真道展審査・通知

審査2023年3月4日(土)～

5日(日)

通知3月下旬頃本人に通知、また、北海道新聞紙上に掲載

・記念道展作品集編集

2023年3月～4月

・記念道展展覧会

2023年4月25日(火)～30日(日)  
場所 札幌市民ギャラリー

(札幌市中央区南2条西6丁目)

以降全道各地にて巡回展を開催

・表彰式

公募展の表彰、道写協表彰(感謝状・功労賞・協会賞等)

2023年4月30日(日) 13:00～

場所 道新ホール(札幌市中央区大通西3丁目北海道新聞社ビル8F)

・講演会

清水哲朗氏 モンゴル取材25年の軌跡

2023年4月30日(日) 14:45～

場所 道新ホール

・第70回記念写真道展の巡回展の場所と日程

名寄 文化センター

5月16日～5月25日

室蘭 市民美術館 6月2日～6月7日

羽幌 中央公民館 6月14日～6月18日

苫小 文化交流センター 6月30日～7月2日

釧路 生涯学習センター 7月19日～7月23日

別海 生涯学習センター 7月25日～7月28日

三笠 市民会館 8月10日～8月12日

旭川 市民文化会館 8月23日～8月27日

北見 北見文化センター 9月20日～9月24日

函館 芸術ホール 11月23日～11月26日

網走 市立美術館 12月16日～1月14日

お知らせ

北海道写真協会事務局の電話番号が変更になりました

011-241-5161

支部例会成績

鉏路 支部長 石川 隆

- ▽9月例会(8日)工藤二男審査会員選考)
  - ①鈴木啓司郎②中嶋淳一③橋本憲一④山本正裕⑤佐々木せつ子⑥長尾芳文



9月例会1位「7・5の日周」 カラー 鈴木啓司郎

- ▽11月例会(10日 佐藤武治審査会員選考)
  - ①蝦名昇②佐々木せつ子③橋本憲一④中嶋淳一⑤山口良雄⑥松本紀幸

小樽 支部長 高橋俊弘

- ▽5月例会(18日 増田輝敏審査会員選考)
  - ①二村かおり②根本辰男・一條周一④小林芳江
- ▽7月例会(6日 小泉和子審査会員選考)
  - ①二村かおり②一條周一③根本辰男④小林芳江
- ▽9月例会(7日 川原静雄審査会員選考)
  - ①二村かおり②根本辰男・一條周一④小林芳江
- ▽11月例会(2日 増田輝敏審査会員選考)
  - ①一條周一②根本辰男③二村かおり④小林芳江

余市 支部長 一戸弘利

- ▽8月例会(20日 審査互選)
  - ①③③石岡誠三②後藤芳江③吉田金治
- ▽10月例会(15日 審査互選)
  - ①②②③一戸弘利①②③後藤芳江①①①吉田金治③石岡誠三

札幌 支部長 掛村一憲

- ▽9月例会(16日 山本隆晟審査会員選考)
  - ①副馬雅之②飯高光紀③見野則幸④高橋あや子⑤浦崎毅子⑥米澤三千代功⑦梅澤勇二⑧板垣功⑨落合英男⑩林繁造
- ▽10月例会(21日 小森字先生選考)
  - ①片岡眞弓②見野則幸③松本雅彦④落合英男⑤林繁造⑥掛村一憲⑦飯高光紀⑧副馬雅之⑨高橋あや子⑩板垣功



10月例会1位「満月」 カラー 片岡眞弓

- ▽11月例会(18日 武藤省吾審査会員選考)
  - ①片岡眞弓②板垣功③落合英男④林繁造⑤掛村一憲⑥梅澤勇二⑦府中紀一⑧松本雅彦⑨吉野友昭⑩米澤三千代

旭川 支部長 白鳥敏昭

- ▽9月例会(8日 田本實審査会員選考)
  - (特選)①③佐藤祐子②⑤岩淵隆④宮野和子(入選)池永靖子2点・小山満・添田裕子2点・坪井秀樹ほか
- ▽10月例会(13日 馬場和美審査会員選考)
  - (特選)①佐藤祐子②吉田清治郎③添田裕子④山本義則⑤宮野和子(入選)佐藤祐子・小山満2点・上平秀美・白田忠雄・森田正義ほか
- ▽11月例会(10日 田本實審査会員選考)



11月例会1位「お互い譲らず」 カラー 森田正義

- (特選)①森田正義②小山満③白田忠雄④池永靖子⑤神原美幸(入選)浦島寛・添田裕子2点
- 岩淵隆・佐藤祐子・山本義則・神原美幸・白田忠雄ほか
- ▽令和4年 年度賞
  - 最高作品賞 森田正義 年度賞 森田正義・小山満・上平秀美(3名同点) 奨励賞 山本義則 敢闘賞 佐藤祐子 新人賞 岩淵隆

栗山 支部長 黒田幸則

- ▽8月例会(26日 審査互選)
  - ①黒田幸則②黒田幸則2点③黒田幸則・中島武士(入選)斎藤優子・黒田幸則2点・中島武士4点

室蘭 支部長 中西 勉

- ▽9月例会(25日 山下智審査会員選考)
  - ①吉井良平②斎藤真澄・太田秀樹③牛田博克・成田正利・山谷茂(入選)鳴海明・牛田博克・吉井良平ほか

恵庭 支部長 西澤 實

- ▽9月(12日 審査互選)
  - ①吉村登美子②菅原恵子・吉村剛・五東建夫⑤中村忠司・梅田信俊⑦服部健治・佐野ミヨ・田中康夫・水高順子ほか
- ▽10月例会(10日 田嶋英夫審査会員選考)
  - ①加藤憲秋②西澤實③五東建夫④神能俊行⑤前田敏雄

編集後記

会報発行に当たり皆様には多くのご協力を頂きありがとうございます。  
来年は楽しく希望のある年になりますように。

(田本・掛村)